



学園だより



東京都社会福祉事業団

第56号

発行 東京都船形学園

令和2年10月15日発行



園長 雨谷 真人

令和元年台風十五号が房総半島を直撃してから一年がたちました。今だ、ブルーシートのかかっている家々が見受けられますが、ただ、着実に復旧が進んでいることも確かです。

現在はコロナ禍にあり、刻一刻と変化する情報に翻弄され、世の中が不穏な空気に覆われています。学校や地域の行事が中止や変更となるなか、毎年開催している園主催の「ふれあい祭」も残念ですが中止とさせていただきます。

一方、人々が新しい生活様式を取り入れ、不自由しながらも、より良い日常を模索し始めている、そんな段階でもあると感じます。

学園でも、子供たちの行動制限を緩和しつつ、手洗いを徹底するなど、メリハリをつけた対策に取り組み始めています。

今号では、例年通りとはいかない中で、職員や子供たちが一緒になってアイデアを出し企画した各種行事をご紹介します。生き生きとした子供たちの様子が伝わると幸いです。お読みいただければ幸いです。

試練は続きますが、前を向いて、今できることを考え、子供たち、職員、そして地域の方々と協力して、この難局を乗り越えていきたいと切に願っております。今後とも皆さまのご理解とご支援のほど、どうぞよろしくお願い申し上げます。

### 『マスクの寄贈がありました』

以前船形学園に看護師として勤務されていきました新本様より手作りマスクの寄贈がありました。新型コロナウイルスの影響でこのお店もマスクが品薄で入手困難な中、学園にいる子供たちのために作って頂きとても感謝しています。様々な模様があり、子供たちも我先にとマスクの争奪戦が繰り広げられていました。100年の歴史がある船形学園ですが、地域の方々や今まで携わって下さった方々の温かいご支援のおかげで今日までやってこられたのだと改めて感じた瞬間でした。本当にありがとうございます。

### 『挑戦！手作りマスク！』

新本様の手作りマスクと昨今のマスク必須社会を目の当たりして、我が船形学園も手作りマスクに挑戦してみました。子供たちも初めての試み。試行錯誤しながらも楽しく作る姿は職員も見ているととても楽しいです。職員の想像を超える飾りつけや「もったいないから、つけないで飾る！」と言う発言など子供の行動には驚きと発見がたくさんあります。皆満足いくマスクが作れたようで良い経験になりました。



ブログやっています。日々のちょっとしたこと、学園行事など投稿しています。“東京都船形学園 ブログ”で検索して下さい。是非ご覧ください!!





新年度の幕開けは、コロナウイルス感染症防止による自粛期間と共に始まりました。長い休み、どこにも出掛けられず我慢の日々をどうにかして楽しくしたい...! そう思い、横割り活動で集まった際、高校生たちに「何か楽しいことやろうよ」と提案してみました。すると...: その時園内で流行っていた、鬼ごっこやド口警の進化版「逃走中」のアイデアが出ました。こうして「船形学園 逃走中」計画が始まったのです。



五月十二日逃走中本番当日、午前中は幼児、小学生低学年のミッション、午後からは小学生高学年、中学生、高校生と順番に逃走者が代わっていきます。ハンターは職員と高校生、一日中走り回り、職員、高校生とクタクタでしたが、参加した子供たちからは「楽しかった!」「またやろうね!」「次は戦闘中やろうよ!」とうれしい感想をたくさんもらいました。こんなに反響が大きいのなら、次回の開催もあるのでは...!

それと、中高生たちの足の速さとチームワークに圧倒されました。筋肉痛の足をさすりながら、高校生たちの足の速さに歯が立たなかった悔しさと闘っています。次回に向けて、大人たちも負けてはいられません。子供たちと沢山遊んで鍛えてもらわねば...!!

5月の良すぎる天気と子供たちの笑顔に恵まれ、とても楽しかったです。また一緒に楽しいことやろうね!



## わたしたちの街

今号より、私たち船形学園を見守って下さる地域の方々を、地域コラム「わたしたちの街」を通してお伝えしていきたいと思えます。

### 第一回 見守り隊 今野さん



船形学園児童や近隣の子供たちの登下校をいつも安全であるように見守って下さっている見守り隊。今回は見守り隊の一人、今野さんに学園児童がインタビューをしました。

Q お名前を教えてください。

・今野晴美(こんのはるみ)です。

Q 見守り隊をやろうと思ったきっかけは何ですか

・昔、東金市で起きた子供の交通事故故がきっかけです。子供が心配で何かできることはないかと思い、仕事をやめた後に見守り隊に入りました。

Q 学園の子供たちについて

・もともと学園にいたこともあり弟や妹のように思っています。

今野さんはじめ、見守り隊の皆さんこれからもよろしくお願いします!

## 当園の横割り活動とは…

普段は小さい子から中高生までと一緒に生活していますが、そうした縦割りの寮生活だけでなく、当園では幼児、小学生、中学生、高校生とそれぞれ横割りのグループを設け、月に1回程度活動しています。横割り活動ではその学齢に応じた体験や活動を企画・実施をしたり、進路や自立に向けたプログラムを進行しています。今回の記事では各横割りの夏の行事について紹介します！

### 幼児

幼児横割りでは今年の夏「ちびっこ探検隊」と称して、館山市内にある城山公園に遊びに行きました。たくさん遊んだ後にちびっこ達に感想を聞いてみました。今日のちびっこ探検隊のお出かけて何が楽しかった？

- ・ブランコ!!
  - 次はどんなところに行ってみたい？
  - ・ブランコのあるところ！
  - 次の探検はゾウのいるところだよ。
  - どんな動物に会いたい？
  - ・ゴリラ!!!
- 子供の想像力は無限ですね。(笑)



### 小学生

小学生横割り活動では八月十八日から一泊二日で大房岬へキャンプに行ってきました。

当日の午前中は突然のゲリラ豪雨。実施の判断に迷っている中、子供たちが事前準備に参加。子供たちの願いが通じたのでしよう。その間に雨も上がり、予定通りの出発ができました。

キャンプ場までは徒歩での往復。現地ではテント張り、野外炊飯、磯遊び、BBQと皆で協力して各行程を楽しめたことと思います。準備から実施に至るにあたり、担当職員だけではなく様々な職種の職員が「子供たちに楽しんでもらいたい」との思いから協力してくれ、子供たちは皆での良い思い出するために、

「自分が何ができるのか」ということを考えて行動してくれていた姿が印象的です。

今から来年の夏の活動が楽しみです。



## 夏の横割り活動!!



### 中学生

中学生横割り活動は、五月から話し合いを重ねて決めていきました。昼からの活動で館山体験交流協会に依頼し、シーカヤック、貝宝石のペンダント作りに参加させていただきました。

当日は日差しが照りつけるなか、シーカヤックでは海で思いっきり遊び、普段できない体験をさせて頂きました。貝宝石のペンダント作りでは、自分達で貝を探して磨き、ペンダントを作りました。その夜は皆でBBQ!

中三生は手際が良く頑張ってくれていました。一年生二年生は三年生を見習って行動できることを期待しています！  
次年度はどんな夏を皆で過ごそうか？



### 高校生

高校生最後の横割り 高校三年生 Y・Y

高校生横割り活動ではキャンプをしました。夜は天気予報では大荒れの予報が出ていましたが…予想通り大雨大風でした。ですが、みんなそれぞれ幸せで楽しくて今年も団結力もあったと思います。天気は残念でしたが、とても良い思い出になりました。みんなで海に行ったり、水風船や花火をしたり、お金持ち風なりツチなBBQをしました。エビが美味しかったです。今このメンバーでキャンプができたことを嬉しく思います。他にも夏らしいことをしましたね。たくさん。私たち高校生をまとめあげ、それを温かく見守ってくれた先生方には感謝の気持ちでいっぱいです。どんな困難も乗り越えることができたのは、同じ仲間と先生達がいだからこそだと思います。

高校生になりもうすぐ卒業、卒園となります。私は今、達成感と充実感でいっぱいです。



## 苦情相談員さん紹介

子供たちの学園の生活を  
第三者として見守り、相談に  
乗ってくれる頼もしい存在、  
苦情相談員の大和地紀昭(や  
まとじ のりあき)さんから  
お話を頂きました。



子供たちと話をさせてい  
ただき、個々の積極的な姿勢  
に感銘を受けました。

それぞれが気遣いながら  
生活している様子も見え、み  
んなの仲良くしている姿が嬉  
しいです。

子供たちへ、少しでも話し  
てみようかなと思った人は、  
意見を聞かせて下さい。

## 磨崖碑について

船形学園の前身・東京市養育院安房分院は、明治四十二年  
に開設しました。磨崖碑は、その由来を記す記念碑です。

撰文は二松学舎創立者である三嶋中洲博士、書は青淵の  
号を持つかの洪沢栄一によります。洪沢栄一は初代養育院  
長として安房分院の設立に尽力され、何度も船形の地を訪  
れています。

【見学をご希望される方へ】

磨崖碑は学園内にあり、子供の生活の場であることから、  
一般公開はしておりませんが、事前にご連絡をいただけ  
ばご対応いたします。お気軽にお問い合わせください。

担当 管理グループリーダー 富岡



## ボランティアさん募集!

あなたの趣味や特技を生かしてみませんか。

船形学園では、学習指導をしてくださる方、

子供たちと一緒に遊んでくださる方、行事のお手伝いをし

てくださる方など、各種ボランティアを募集しています。

お問い合わせお待ちしております。



担当 支援グループリーダー 笹原

編

集

後

記

天高く馬肥ゆる秋と申しますように実り豊  
かな時期となりましたね。

皆様には日頃よりご支援、ご協力を賜わり  
心より感謝申し上げます。

令和に入り昨年の台風十五号、そして新型コ  
ロナウイルス感染症と生活基盤を揺るがすほど  
の大きな出来事が続いています。今の自分たち  
にできることは何なのか、子ども達にできるこ  
とは何なのか、日々自問自答を繰り返していま  
す。

いづどんな時でも、人と人が手を取り合っ  
て明るい未来を創っていく、その気持ちを常に  
持ちながら私たちも日々を頑張っていこうと思  
います。

この号に関するお問い合わせは、船形学園広  
報担当までお願い致します。

第56号編集委員 小田・与田

学園だより 「さざなみ」第56号   
発行年月日 令和2年10月15日発行  
編集・発行 東京都船形学園  
千葉県館山市船形1377  
電話 0470-27-2921  
ホームページ  
jigyodan.org/funakata-gakuen/